

Piroxicam の毒性試験

台糖ファイザー株式会社 薬理研究所*

野口 晏弘 橘 正克

菜畑 博司 飯島 護丈

尹 石 淳

浜松医科大学 第二病理学教室

白 沢 春 之

緒 言

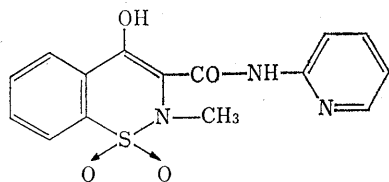
Piroxicam はファイザー社が開発した新しい非ステロイド性抗炎症薬である。

今回、われわれは、piroxicam の急性、亜急性、慢性毒性試験を実施したのでその成績を報告する。

実験材料および方法

薬 物

Piroxicam は白色ないし帯黄白色の水にほとんど溶けない結晶性粉末である。その化学名、構造式を以下に示した。



4-Hydroxy-2-methyl-N-(2-pyridyl)-2H-1,2-benzothiazine-3-carboxamide 1,1-dioxide

なお、対照薬として用いた indomethacin は白色の水にほとんど溶けない結晶性粉末である。

Piroxicam, indomethacin とも特記しない限り 0.3% sodium carboxymethylcellulose (以下, CMC) 水溶液に懸濁して投与した。

実験動物

マウスは ICR 系 (SPF, Slc), ラットは Sprague-Dawley 系 (SPF, Slc) を用い、いずれも生後 4 週齢で購入し、当所で 1 週間飼育した後実験に供した。実験開始時の体重はマウスでは雄 16.0~27.3 g, 雌 14.7~24.2 g, ラットでは雄 97~185 g, 雌 72~160 g であった。このほか、ゴールデンハムスター (雄, 体重 43~90 g), 雑種成犬 (雌雄, 体重 5.6~12.6 kg), アカゲザル (雌, 5.0, 6.8 kg) も用いた。

飼育条件

マウスはポリカーボネイト製個別ケージ, ラット, ハムスターは金網製個別ケージに入れ、室温 $23 \pm 2^\circ\text{C}$, 湿度 $55 \pm 5\%$ の動物室で飼育した。固型飼料 (CE-2, 日本クレア社) および飲料水は自由に摂取させた。

イヌは金属製個別ケージ, サルは金属製モンキーケージに入れ室温 $22 \pm 2^\circ\text{C}$, 湿度 $50 \sim 80\%$

* 〒470-23 愛知県知多郡武豊町字 5-2